

「どんな場面でも…」 ～生活指導と道徳的な指導～

○6月27日

道徳の時間は週に1回程度。

でも「道徳教育はすべての時間で進めて下さい。」ということになっています。今回は学級通信で伝えられた道徳的な指導の紹介です。

分け合う心

1年通信「きらきら」32号より

木曜日に、学級園で残った種をプランターで育てようと、班に1つプランターを配りみんなで作業をすることに。土も種も余りを使用しているのもみんな均等に分けることができません。どんなふうに分け合うのかなと思って見ていたら、「足りないので一つください。」と言う班や自分の分を先に取ってしまう子、どうやって分けたいのかわからず作業に入れない子などいろいろな様子がみられました。また、限られたものをみんなで分けるということをしたことがないと言う子もいました。これまで一人一つあたっていたり、大人が分けてあげたりということがあっても自分たちで相談して物や作業を分担することがあまりなかったそうで、いざこざになる班も。それでも、どうすればよかったのかなと振り返りをさせると、「途中で作業を交代すればよかった」や「最初の土入れがあまりできていない人には後で多めに入れてもらう」などの意見も聞くことができました。これからも意図的にこういう機会を入れていっているんな分け方を学習していく必要があるなと感じました。

人の見方はみんな違うから…

4年通信「よつば」15号より

今回は少し生活指導の話を。最近ちょっとしたことで揉めることが多くなってきています。話を聞くと、大人から見たら本当に「それくらいで喧嘩するの?」という些細なことなんです。子どもの世界からすると大きなことなんだと思います。そこで、学活の時間に次のような指導を行いました。

人は、自分だけの「ものさし」を持っている。考え方や価値観や人となりなどを測るものさしを。それで良いことと悪いことの線引きもできるし、その線の場所も人それぞれ。

なぜ喧嘩するかというと、そのものさしを人に押しつけて相手が不満に思うから。このクラスで、自分はこれでいいと思ったことが相手には良くないことだったという場面をたくさん見かけている。

だから、これからは自分の考えを相手に押しつけないこと。友達のことやしたことを一方向的に否定しないこと。まずは話し合うこと（意見を折り合わせる、という意味で）。そうしたら、友達が普段から何を見て何を考えているかが見えてくる。



これまで何度かこの話はしています（実際は児童向けにかみ砕いて説明していますが）が、子どもは基本的に自己中心に動きますので、まだまだ時間がかかります。まずは「自分の考えを押しつけない」「相手にも言い分はある（ただし、言い訳はすぐに見抜くよ）」「それはダメという否定ではなく、それはどうなの?と疑問の形で聞く」などを指導していきます。

道徳の時間であれば「親切・思いやり」「相互理解・寛容」、場合によっては「公正・公平・社会正義」という内容で学習されそうな指導。

身近な学習時間や生活の中での出来事。

そんな中でも、自分を見つめ、行動を考えていく…。

人間として成長していく機会はたくさんあります。

大人らしい大人に成長できるように。先生方は様々な働きかけをしています。